

## Interview 弱音が至高の美しさ! 音楽家 松下耕さんが惚れ込む、ヤマハの新モデル「C3X espressivo」とは?

演奏者の思いを余すところなく奏でられる高い表現力を追求した新しいグランドピアノ、ヤマハ「C3X espressivo」。プレミアムピアノ「SXシリーズ」の開発を通して培った最新の技術やノウハウを受け継いだ新機種である。その魅力あふれる特長を紹介するとともに、作曲家、合唱指揮者、編曲家として幅広く活躍し、実際に本モデルのオーナーでもある音楽家の松下耕さんにその特色を語っていただいた。

### 松下耕 (作曲家・合唱指揮者・編曲家)

1962年、東京生まれ。関東地方の14の合唱団からなる「耕友会」の音楽監督。作曲家として合唱曲を数多く作曲し、作品は日本国内のみならず、海外でも盛んに演奏されている。合唱曲以外の作品も手がけ、2011年、管弦楽のための《黙礼》が中国・深圳交響楽団により世界初演された。2005年、合唱音楽における作曲、指揮、演奏、教育などの分野での国際的かつ優れた活躍が認められ、「ロバート・エドラー合唱音楽賞」をアジア人で初めて受賞した。

取材・文：神田朝子(音楽ライター) 写真：山田ミユキ

2021年春、ヤマハから誕生したグランドピアノ「C3X espressivo」。音楽用語のエスプレッシヴォ(表情豊かに)の名の通り、音色や音量を演奏者のイメージ通りに変化させられることを目指して開発されたモデルである。音色の決め手となるハンマーは、全てヤマハの自社工場内で製作された、SXシリーズと同じものを搭載。弾力性に優れ、音量・音色の変化幅が非常に広く、演奏者のさまざまなタッチに反応して多彩な演奏を奏でることができる。さらにC3X

### ピアノは体の一部。作曲に欠かせない存在

保育園時代からピアノを習いはじめました。小学1年生から専門的な音楽教室に通い、音楽の道に進むと思っていたのですが、中学2年生のとき、厳しい先生から「今のうちに軌道修正したら?」と引導を渡され、音楽科ではなく普通科に進むことに。音楽と無縁の高校生活を送るものと思っていたら、そこで思いがけず合唱に出合い、初めて「音楽が楽しい!」と思えるようになりました。コーラス部で指揮を始めたのが、本格的にこの世界に入るきっかけです。

「もう一度、大学では音楽を勉強しよう!」と志し、国立音楽大学の作曲科に入學しました。

それからピアノは、体の一部のようなもの。普段、作曲をする際は、ピアノで弾いたあと、脇にあるデスクにセットされたキーボードで作業する、という2段階で創作しています。ピアノを使わず最初から打ち込みで作る人もいますが、私にはできないですね。まずはピアノで作って納得したら、打ち込みは別作業で推敲のために行う感

C3X espressivo

espressivoの本体でそのポテンシャルが最大限に発揮されるよう綿密に整音作業が施されている。美しく響く繊細なピアノニッシモや色彩感のある力強いフォルティッシモなど、演奏者の弾き方に敏感に反応して音色や音量を多彩に変化させることができ、より緻密で情緒的な演奏表現を実現している。

このたび、本モデルに惚れ込み、実際にオーナーとして愛用している音楽家の松下耕さんに、その魅力についてうかがう機会を得た。

じ。自分にとってイメージを作るのは絶対的にピアノです。小さな曲であれば頭の中で作ることもまれにありますが、やはりピアノは自分のイメージを具現化してくれるものと



ピアノは体の一部。人生の相棒です



じっくりとレガートで弾くことができ、ブレない安定感がある

して、欠かせない存在です。

以前、ブダペストで仕事をした際、空いた時間に小学校から依頼を受けていた合唱曲を作曲しました。作曲家のコーディー・ゾルターン記念博物館の地下にあるホールを借り、ベーゼンドルファーのインペリアルを使わせてもらいました。非常に

### 調律カードの記録は昭和49年!「相棒」のヤマハピアノ

保育園の時、ピアノを始めた際はオルガンでしたが、その後アップライトピアノになり、小学6年生で引越した際、親がヤマハの「G2E」を買ってくれました。グランドピアノは嬉しかった一方で、自分にとって苦しかった記憶があります。その当時のピアノ教育は厳しくて「きちんと弾かなければいけない」という強迫観念にとらわれていたんですね。

「G2E」の調律カードを見ると昭和49年と記されています。それだけ長い間、使い続けてきた

響くピアノを使って作曲したら、ピアノパートがすごいことになってしまつて……(笑) 子どものかわいい曲のつもりがとても重厚に。そのとき、作曲する際の楽器は非常に大切な、と改めて感じました。

ヤマハのピアノはもはや人生の相棒。調律師からも「手放すのはもったいないくらい歌う」と言われていました。しかし、長年使ってきたので調律にも手間がかかる。さらにコロナ禍というタイミングも重なりました。年7回ほどあった海外出張がなくなり家にいることが多くなったことで「再びピアノ作品に向かい合ってみよう」という気持ちになりました。幼少期の頃は、レッスンの厳しさに耐えかねてピアノを弾くのが辛い時期もありましたが、大人になってからはピアノを弾く楽し

### 神の導き!:

### C3X espressivoとの出合いと購入の決め手

新製品ということにも好奇心が刺激され、発売されたばかりの頃にC3X espressivoを試弾させてもらいました。CXシリーズはいろいろなところで弾いていたのですが、こちらを弾いてみたところびっくり! 別物です。100万円違っけれどそれに見合う、それ以上の価値があるピアノだと感じました。SNSでピアニストによるレビューを見ると「SXとCXの中間の価格帯・位置づけだけど、SXに限りなく近い」なんて言っている人も。それが理解できる素晴らしいです。

実は、日本のピアノは「歌う」ということに関してはドイツのものに劣るかな、と感じていました。私は歌を書く作曲家なので、じっくりとレガートで弾くことができ、ピアノニッシモもフォルティッシモもブレない安定感がある、その2点が重要です。C3X espressivoは両方を持ち合わせ、さらに弱音の美しさが購入の決め手となりました。

3台の中から選定しました。チェルニーの曲やショパンの革命のエチュード、ラヴェルなど、違うタイプの曲の楽譜を持っていき試弾したところ、「ショパンが似合うな」「ラヴェルにいいな」など同じ製品でも個性がわかりました。購入した1台は、ピアノニッシモをまさに「歌い」、弱音で和音がきちんと鳴ってくる。これは無伴奏の合唱曲を作るときにすごくインスパイアされる音だと感じました。速いパッセージなどはこれから慣れてきて、軽くなって弾きやすくなっていくと思います。その育てていく感じも楽しいですね。

す。そのような折に、まるで神様が導いてくれたようにC3X espressivoに出会いました。

昨晩は、自宅地下にある、作曲用の部屋に設置したC3X espressivoでショパンの即興曲を弾きました。とても優しい音なので寝る前にちよつと弾きたいな、と思わせてくれます。そして、やはり世界一流のヤマハのピアノは安定しているな、この価格でこんなに歌えるなんてコストパフォーマンスが良いな、と改めて感じています。日本の風土をわかっていて、メンテナン스가楽なところもおすすめの点です。

実はC3X espressivoを使って、合唱曲を既に2曲作りました。男声合唱曲ですが、このピアノは倍音がよく響いてくれるので作曲しやすい。歌声と本格的に合わせたことはまだないのですが、合唱とは相性が良いと感じています。伴奏の「歌い方」はソロ演奏と異なり、歌や他の楽器を引き立てるように手綱をとるのが難しい。その意味でも弱音が美しいこの楽器なら、うまく際立たせてくれるはずです。主役にも脇役にもなる、その懐の深さが大きな魅力です。



ヤマハ C3X espressivo  
3,630,000円(税込)  
お問い合わせ先  
株式会社ヤマハミュージックジャパン  
ピアノご相談窓口  
Tel : 0570-003-808